



## アートなフチ旅第2回目は南陽市・高島町編。次の作品をご紹介します。

- ①赤湯駅西側のモニュメント ～ ②えくぼプラザの石のオブジェ ～
- ③まつかわカッパ公園の板碑 ～ ④高島町庁舎通り商店会のレリーフ ～
- ⑤昭和縁結び通りの石像 ～ ⑥高島町文化ホールまほらのブロンズ像 ～
- ⑦ちょっと寄り道はJR高島駅周辺

### 1 飛翔 ～赤湯駅西側のモニュメント～

JR赤湯駅西側の広場に設置されているモニュメントは、「飛翔」と題されたもの。寄り添うように立っている3本の石柱と、パイプのような物を素材にしたモニュメントです。

南陽市内に伝わる鶴の恩返し伝説をモチーフにした作品で、鶴を表現しているのだそうです。3.75mの高さの作品を下から仰ぎ見ると、パイプの部分が形づくる姿はまさに大空を優雅に羽ばたく鶴のように見えます。

南陽市によると、このモニュメントは1990（平成2）年まで実施されていたふるさとの顔づくりモデル事業の一環として設置されました。

駅から西向きにのびる通りは「シンボルロード」と名づけられ、市民の憩いの場として親しまれています。南陽市出身童話作家の結城よしを氏の歌碑もあれば、ラ・フランスを模した石の置物などもありますので、のんびりウォーキングしながら景観を楽しんでみてはいかがでしょうか。



鶴の恩返し伝説をモチーフにしたモニュメント「飛翔」

## 2 知の森の入り口で ～えくぼプラザの石のオブジェ～



石のオブジェ「知の森の入り口で」

開湯 900 年の歴史があり、山形県屈指の温泉街がある南陽市赤湯地区の文化施設・えくぼプラザ。その入り口階段に設置されている石のオブジェは、同地区出身の彫刻家・高橋朗（たかはしあきら）氏が手がけた「知の森の入り口で」という作品です。

高橋氏は同プラザのほか、赤湯温泉観光センター「ゆーなびからこ館」や南陽市内の幼稚園などにも作品を寄贈しており、2009（平成 21）年には南陽市表彰を受けています。

作品解説には「図書館や生涯学習の場である当施設は多様性を秘めた知的活動の森に似ている。英知のシンボルと森の番人としてのフクロウを重ね合わせたイメージで制作されたこの彫刻は入り口で知の森の案内役として訪ねる人を迎えてくれる」と記されています。その姿は 7 万冊を超える蔵書数を持つ同施設の水先案内人のようです。

高橋氏の作品を見て歩き、汗をかいたら赤湯温泉でリフレッシュする、というのもグッドアイデアですね。

## 3 阿弥陀板碑 ～まつかわカッパ公園の板碑～

国道 13 号糠野目橋の西側にある最上川河川敷、糠野目緑地（通称まつかわカッパ公園）駐車場＝高島町糠野目＝の一角に、「板碑」と記された見慣れぬ看板が。その隣には石碑のようなものがあり、一体何なのだろうと考え込んでしまいます。

これは、2001（平成 13）年に行われた国による公園整備工事の過程で出土した石碑で、鎌倉時代のものとみられています。阿弥陀如来（あみだによらい）を意味する梵字が刻まれているようですが、一体どのような役割を持った石碑だったのでしょうか。



公園整備工事の過程で出土した板碑

この公園には散策路や芝生広場、遊具広場、多目的グラウンドなどが整備されているので、のんびり休んだり、水辺の生き物を観察したりしてはいかがでしょうか。

## 4 童話のレリーフ ～高島町庁舎通り商店会のレリーフ～



童話の一コマが再現されたレリーフ

高島町役場＝高島町高島＝の前を東西に走る主要地方道高島・川西線。その歩道上をふと見上げてみると、街路灯に付随して掲げられたレリーフがあることに気づくはずです。高島町は“まほろばと童話の里”として知られており、これは世界の童話の一コマがひとつひとつ切り絵タッチで再現されたものなのです。

高島町庁舎通り商店街振興会が「花とメルヘン」をテーマに掲げた企画の一つで、東北芸術工科大学にデザインを依頼しました。

切り取られた場面は「夕鶴」「おおきなかぶ」「猫の宮」「長ぐつをはいたネコ」「赤い蠟燭と人魚」など全部で35種類。もちろん、地元出身の童話作家・浜田広介（はまだひろすけ）氏（1893～1973年）の作品をモチーフにしたものもあります。

カメラ付き携帯電話で写真を撮っている人も少なくないそうで、人気のスポットに。どんな童話があるのか一枚一枚探し歩くのも楽しそうですね。数百メートルにわたって設置されていますが、夢中になるとあっという間。ただし、レリーフを追いかける際には足元に十分ご注意くださいね。

## 5 広介童話の石像 ～昭和縁結び通りの石像～

高島町から切り出される凝灰岩（ぎょうかいがん）等は、高島石と呼ばれて製品用に使われていますが、その高島石でつくられた石像10体が、町内の昭和縁結び通りの商店街に並んでいます。広介童話の名作をモチーフに高島石の柔らかな風合いで表現されており、地域の歴史と文化が融合した作品といえるでしょう。

同町には、石橋の幸橋（さいわいばし）をはじめ、竜樹院（りゅうじゅいん）の大日如来石仏、巖島（いつくしま）神社の石鳥居、旧高島駅など、高島石を用いた建造物が残っているほか、高島町郷土資料館＝高島町安久津＝には高島石の標本や石を切り出す道具が展示されています。

同町の歴史と深く関わる高島石の文化を広く情報発信しようと、高島昭和縁結び通り振興会が企画、引地（ひきち）石材店が作品を制作し、同地区に寄贈しました。



浜田広介童話をモチーフにした石像

写真は勢至観音堂（せいしかんのんどう）前にある「じぞう様とはたおり虫」です。もちろん「竜の目の涙」や「泣いた赤おに」など、広介氏の代名詞と言える作品に関するものもそろっています。

このほかにも、犬の宮、猫の宮にちなんだ同振興会のロゴマーク「タマちゃん」の石像8体が物語形式に設置されています。タマちゃんが観音様に縁結びをお願いし、淡い恋心が芽生えていくというストーリー。物語の結末は、実際に通りを訪れて確かめてくださいね。

近くには、昭和30年代をテーマにしたミニ資料館や、長さ4mもある大わらじが奉納されている竜樹院大日如来石仏などがあり、見どころ満載。昭和縁結び通りでお買い物をしながら、昭和レトロの街並みと広介童話の石像を楽しんでいきましょう。

## 6 存在のしかた ～高島町文化ホールまほらのブロンズ像～



高島町出身の彫刻家・鈴木実氏の作品「存在のしかた」

高島町文化ホールまほら＝高島町高島＝の西南角の芝生内に立つブロンズ像。これは高島町出身の彫刻家・鈴木実（みのる）氏（1930～2002年）の作品で、タイトルは「存在のしかた～私自身が広場に立つ時～」です。

3作品が並んで設置され、一番大きいもので高さ約215cm、横約55.6cm。ズボンのようなデザインの表面に浮き立つしわの質感はまるで本物の生地のように、間近で見るとその質感を確かめてみてください。

鈴木氏は、アートなプチ旅第1回で紹介した「住之江橋のブロンズ像」の作者である米沢市出身の彫刻家・桜井祐一氏に師事し、平櫛田中賞など受賞しています。ホール入り口にも作品があるほか、米沢市の上杉神社境内にある上杉謙信公像も鈴木実氏が手がけた作品です。師匠と弟子の作品を一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。

## 7 ちょっと寄り道。～JR高島駅周辺～

温泉施設が併設された駅として有名なJR高島駅＝高島町山崎＝。駅を出て足元に目を落とすと、切り絵風に描かれた赤鬼のパネルが地面に埋め込まれ、「まほろばの里たかはた」の文字が。さらに歩を進めると「竜の目の涙」などの童話をモチーフとしたパネルが、「犬の宮猫の宮 6.5km」「観音岩 14.6km」「亀岡文殊 4.8km」「まほろばの緑道入り口」などと、高島の観光スポットを案内しています。



糠野目緑地駐車場にたたずむ河童の石像

さらに、近くにある駅前広場には河童の石像が。そういえば糠野目緑地駐車場にも河童の石像がありましたよね。高島町では毎年、河童みこしが繰り出したり、長いかっぱ巻きを作ったりする、まほろば河童まつりが開催されています。さすが高島町、伝説の河童と出会う確率がとても高いですね。

- 
- 掲載日 平成22年11月
  - 執筆者 大竹 茂美（置賜文化フォーラム事務局）